

北海道における

昭和四十四年度

指導奨励事項(草地の部)

◎チモシー優良品種

「北系四三〇五」(品種名検討中)

北海道立北見農業試験場、牧草育種指定試験地において、北海道在来種を母材料として集団選抜法により育成された多収、多葉の採草型新品種である。生産力検定に供試した十二品種系統中最高の収量を示し、その主な特性は次の通り。

- 1 早生系に属し出穂期は北海道在来種と同様であり、クライマックスよりやや早い。
- 2 稈太く、草丈高く採草型であり、葉部率すぐれ多葉性である。
- 3 斑点病、条葉枯病に抵抗性を示し、また強稈で倒伏にも強い。

〈種子増殖中〉

北王(ホクオウ)

雪印種苗飼育成品種で、ソ連ウクライナ系を母材料とし集団選抜法により育成された。茎数の多い採草型品種で、北海道内各地において多収性を示し、その特性概要は次の通りである。

- 1 早生系に属し、一番草の出穂期は北海道在来種なみであるが、二〜三番草の出穂期はやや早い。
- 2 草丈高く直立性で、分けつ数多く、刈取後の再生が比較的良好である。
- 3 斑点病、条葉枯病に抵抗性を示し、また乾物収量がすぐれている。

◎オーチャードグラス優良品種

「月寒在来」(品種名検討中)

北農試草地開発部において、北海道在来種を母材として集団選抜法により育成された新品種で、採草・放牧いづれにも高い生産力を有している。主な特性は次の通り。

- 1 早生系に属し、札幌では五月下旬に出穂する。
- 2 雲形病にはあまり強くはないが、条葉枯病にやや高い抵抗性を示す。
- 3 春の草勢、夏期の再生ともによく、秋の草勢もさほど低くなく、採草放牧いづれにも適する兼用型である。
- 4 草型は直立型と匍匐型との中間であり、また耐寒性は強い方に属する。

◎イネ科牧草の採種栽培法

- 播種期は五〜六月が適当で、晩播は利用一年目の減収やオーチャードグラスの冬枯れを生ずる。
- 畦幅は六〇センチが適当である。
- 播種量は一〇坪当たり五〇〇〜六〇〇gがよく、チモシーでは更にうす播きにより増収されるであろう。
- 施肥……原則的には麦類と同様に考えてよい。窒素が収量を決定する主要因であるが、秋の追肥と春の追肥とを分けて考慮すべきである。
- オーチャードグラス……一〇坪当たり一〇〇〜一五〇g
- チモシー……一〇坪当たり一五〇〜二〇〇g
- 収穫は開花盛期後三〇〜三五日目。
- 採種後の残株は刈取るか焼きすてるべきである。

◎家畜ビートの紙筒移植栽培

— 天北地方 —

- 家畜ビートの紙筒移植による増収率は極めて高い(二〇〜四〇%増)。
- 「バーレスストリーネ」および「シユガーマンゴールド」は移植栽培においても多収性を示している。
- 移植用紙筒の長さは育苗、移植操作、活着、生育および収量などの面から、必ずしも現在一般に使われている一三センチの長さのものを必要とせず、八センチ程度で十分と考えられる。

牧草と園芸 四月号 目次

□ 飼料作物主要品種の使い分け 解説シリーズ 3

○ ソルゴーおよび スーダングラス

□ 北海道における昭和四十四年度 指導奨励事項(草地の部)

■ 新しく誕生したチモシー 優良品種「北系四三〇五」

…………… 島田 徹

□ 北海道優良品種に指定された チモシー 北王・兼子 達夫

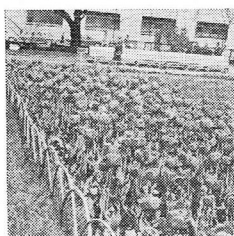
■ 暖地のアルファルファ品種と 栽培…………… 鈴木 信治

■ なめこのオガクズ栽培法

…………… 吉水 秀雄

■ ラオスの農業 I…………… 藤原 昇

〈表紙写真〉 チューリップ



雪どけと共に待ち兼ねた様に咲き出すクロッカスと水仙に次いで、チューリップは風雪に耐えた早春の魁である。